

【日程】9:30 泊漁業協同組合前駐車場集合①日程説明②菅江真澄と泊湊の歴史説明
 ③泊漁業協同組合荷捌施設見学 10:00 大滝やタタミ岩、ぼっとあげ、大穴洞窟見学
 11:30 フノリ採り体験 (気を付けて) 12:00 現地解散 Q 菅江真澄の旅の目的は?



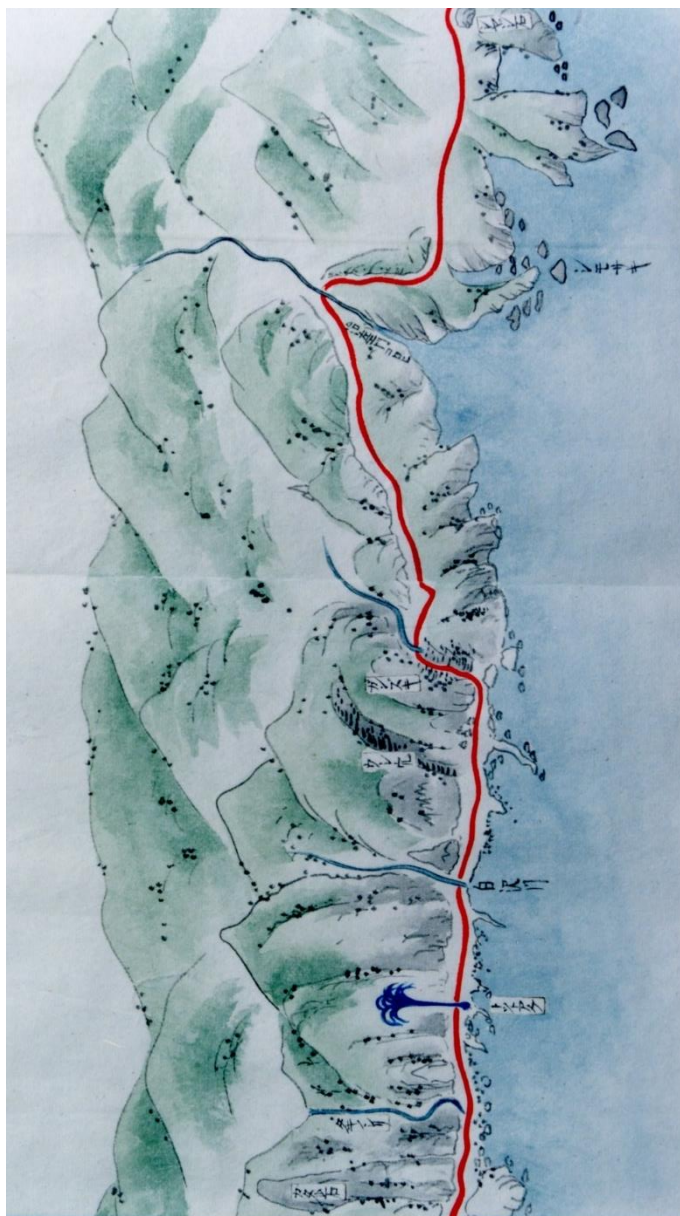
1 泊のリアス式海岸線を菅江真澄になりきって歩く

寛政5年(1793年)の冬、平安中期の後撰和歌集に詠われている「おぶちの牧」を見るため六ヶ所村を訪れた人物がいる。江戸時代の旅行家・菅江真澄(1754年~1829年)だ。真澄は旧暦の11月30日から、およそ2週間をこの村で過ごし、その自然や人々の様子を歌や絵にし、旅日記「菅江真澄遊覧記」を残していた。

「北奥道中図：江戸時代のガイドブック」より



秋田県立博物館所蔵



(1) 抜け通し

断層面? 弥次郎穴
トトロの穴?
昔洞窟、コウモリも



(2) 滝の尻大滝

滝つぼを見て
みよう?
昔は...



(3) タタミ岩

安山岩板状節理
ベンチ? 6月は花見!



(4) ぼっとあげ

潮吹き穴: 「ぼっち」
海食洞と穴
断層?



(5) 大穴洞窟遺跡

人骨3体発掘、土器
コウモリ



※フノリ採り

・岩場はすべるので無理をせず、気を付けて

2 泊海岸ジオサイト見学

～六ヶ所村ジオパーク指定を目指して～

新生代新第三紀中新世（約2,300万年前から約500万年前まで）は、日本がユーラシア大陸から分離し、日本海が形成され、これに伴う海底火山活動で日本各地にグリーンタフと呼ばれる凝灰岩層が発達した。泊海岸では、崖や海岸の岩場に、海底火山噴出物が広がっている。凝灰角礫岩や枕状溶岩・岩脈も見ることができる。（泊累層）



注3) 図3 新第三紀・鮮新世の古地理(600万年前-300万年前まで)

糸野(1975)による『日本海と大和堆』から

(1) 泊海岸の海底火山岩（凝灰角礫岩） ※以下写真は、郷土館職員撮影

水中でマグマが噴出して形成された火山岩や火山砕屑岩が堆積してできた。現地性と再堆積性がある。



(2) 枕状溶岩(冷却節理)・縄状溶岩

枕状溶岩は、チューブ型の玄武岩質の溶岩。

- ① チューブの中が空洞のものもある。外側が冷え固まり、中が流れ出てできる。
- ② 急に冷えてできた放射状のひび割れ・冷却節理も見られる。
- ③ チューブの先端は丸くなっている。
- ④ バラバラになって凝灰角礫岩に含まれている。
- ⑤ 溶岩が流れた様子がわかる縄状溶岩も観察できる。
- ⑥ マグマの圧力で殻が破れた跡も観察できる。



泊海岸は、美しいリアス式の海岸です。激しかった海底火山活動を観察することができます。

